

第 123 回富山大学眼科臨床カンファレンス

—ハイブリッド開催(現地+Zoom)—

謹啓 余寒の候、先生方には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、第 123 回富山大学眼科臨床カンファレンスを下記の要領で開催いたします。

ご多忙中とは存じますが、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。 謹白

開催日時：令和 8 年 3 月 14 日（土）PM 6:30～PM 8:30

会場：富山県民会館 611 号

当日、現地+ライブ配信にて講演会を開催します。ネット通信トラブルに対応できない場合もありますので、できるだけ現地参加をお願いいたします。Zoom（オンライン）を使用しての参加も可能です。Zoom 参加される方は、事前に下記 QR コード・URL より参加申し込みをお願いいたします。申込受付返信メールは大変申し訳ございませんがいたしておりません。

ご了承ください。申込み URL <https://forms.gle/7zJSey96VL4Tx4A67>

Zoom 申込期間は、開始：3/4(水)～終了：3/11(水)までといたします

【申込必要事項】

① 氏名、②所属、③メールアドレス、④専門医番号をご記入ください。

Zoom 申込者には URL、ID、パスワードをメール送信いたします。

【参加費について】

参加者は、ID、パスワード等のメール送信の際に振込情報をご案内いたします。

参加費 富山眼科集談会会員：無料、非会員：2,000 円



プログラム

【現地での講演】

1. 【特別講演】(PM 6:30 ~ PM 7:30)

座長 丸山 和一 先生（富山大学眼科学 准教授）

「眼形成アップデート～眼瞼・涙道疾患の機能面～」

北口 善之 先生

(大阪大学大学院医学系研究科眼科学 学部内講師)

2. 【特別講演】(PM 7:30 ~ PM 8:30)

座長 林 篤志 先生（富山大学眼科学 教授）

「ワンランク上の ICL 手術を目指して」

神谷 和孝 先生

(昭和医科大学大学院保健医療学研究科視覚機能学 教授)

* 本会は日本眼学会専門医制度認定事業（事業番号：59127）です。

取得単位数：現地/1 単位、Web/0.5 単位です。

* 本会は日本医師会生涯教育制度における 2 単位 (4,19) カリキュラムコードを取得することができます。

主催 富山眼科集談会

【要約】

眼形成アップデート～眼瞼・涙道疾患の機能面～

北口 善之 先生

(大阪大学大学院医学系研究科眼科学 学部内講師)

眼瞼下垂、内反症、涙道閉塞などの眼形成疾患は、整容の問題だけでなく機能的な不便も引き起こす。しかし、患者の機能的不便に対する理解が不十分であると、適切な治療介入の時期を逃したり、患者満足度の低下を招くことがある。

本講演では、眼形成疾患における機能障害の評価方法と定量的評価指標を紹介する。眼瞼下垂では視界狭窄や実用視力低下をもたらし、下方視時に不便を感じる患者も存在する。睫毛内反症では乱視や弱視との関連性、涙道閉塞では涙液メニスカス上昇による視機能への影響についてのエビデンスを提示する。また、治療介入を勧める際の判断基準についても解説する。患者の訴える不便を理解し、治療効果を説明できるようになることで、満足度の高い診療を目指す。

ワンランク上の ICL 手術を目指して

神谷 和孝 先生

(昭和医科大学大学院保健医療学研究科視覚機能学 教授)

有水晶体眼内レンズは、レーシック手術と比較して高い安全性・有効性だけでなく、術後視機能の優位性が注目されています。個体差の大きい角膜創傷治癒反応の影響が少ないことから、安定性や予測性も優れています。高価なレーザー装置も不要であり、白内障手術に習熟したサージャンであれば手術手技も難しくありません。このような背景から、当初の強度近視だけでなく中等度近視にまで適応が拡大しつつあります。実際に国内におけるレーシック手術需要は大幅に減退しており、後房型有水晶体眼内レンズ (Visian ICL™, STAAR Surgical 社) が台頭しています。社会全体としての認知度も高まったこともあり、ICL 手術が現在のマーケットを席巻している状況ですが、急速な普及の反動として手術の質が低下する可能性も否めません。

本講演では、医師主導による正しい普及に向けたこれまでの取り組みや手術に関するテクニックを紹介し、実践的なトラブルシューティングや AI を使ったレンズサイズの最適化についても言及したいと思います。